

事務事業評価表(既存事業)

コード 5-3-4	事務事業名 消防団詰所整備事業	所管部課 環境防災部防災課					
事務事業の概要	事務事業の目的 詰所を消防活動等の拠点として十分に機能させるため、建築後30年以上経過し老朽化の著しい詰所を整備する。	総合計画上の位置づけ (政策)災害に強いまちづくり (施策)消防施設の整備 (主要施策)消防団詰所の整備					
	実施内容、実施方法 市全体12箇所の消防団詰所を順次、整備していく。	根拠法令等					
	事業開始時期 平成 13 年度	実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他( )				
評価指標の設定	活動指標名 詰所建替え数	活動指標の考え方(定義) 1年間に建替えた消防団詰所数					
	成果指標名 整備率	成果指標の考え方(定義) 全詰所12箇所のうち、整備が完了した箇所の割合					
事務事業データ			単位	14年度	15年度	16年度	17年度
	事業費(A)		千円	0	0	69,038	39,163
	国庫支出金					0	
	都支出金						
	地方債					64,100	
	その他						
	一般財源				4,938	39,163	
	所要人員(B)		人			0.10	0.10
	人件費(C)=平均給与×(B)		千円	0	0	833	833
	総コスト(D)=(A)+(C)		千円	0	0	69,871	39,996
	単位当たりコスト (E)=(D)/(詰所建替え数)		千円			34,935	
	歳入		千円				
	活動指標	目標値	箇所			2	1
		実績値	箇所			2	
活動指標	目標値						
	実績値						
成果指標	目標値	%			17	25	
	実績値	%			17		
成果指標	目標値						
	実績値						
事業環境	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)						
	国・都・他市・民間等 における類似事業		各市同様である。				
	運営上の制約条件・ 外部要因等						

コード 5-3-4	事務事業名 消防団詰所整備事業	所管部課 環境防災部防災課
--------------	--------------------	------------------

項目	評価結果	判断理由、説明等
事業所管部評価	実績 <input type="checkbox"/> 極めて良好 <input checked="" type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不十分 <input type="checkbox"/> 極めて不十分	建築後30年以上経過し、老朽化の著しい詰所を17年後より立替江を実施した。
	必要性 <input type="checkbox"/> 増大 <input checked="" type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 減少、一部なし <input type="checkbox"/> かなり減少	老朽化が進んでいる詰所が災害時に倒壊したときは、消防団活動が困難になるため、整備事業は必要である。
	効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 大きく改善 <input type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 問題あり <input type="checkbox"/> 抜本的な問題あり	分団運営に多大に貢献している。
	公平性 <input type="checkbox"/> より充実 <input checked="" type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 問題あり <input type="checkbox"/> 抜本的な問題あり	整備することで、消防団員加入にも貢献している。
	総合評価 <input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止	

17年度における改善点	12分団については、用地買収を見込んでいたが、市有地の確保ができたので、用地費の予算が減となった。
-------------	---

行革本部評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止
--------	--

評価の視点

実績：十分な成果をあげているか。必要以上のサービスにより、経費が過大となっていないか。など

必要性：国・都・民間での実施状況に鑑み、市が実施すべき事業といえるか。社会経済状況の変化を踏まえて実施しているか。廃止した場合に大きなデメリットは生じるか。など

効率性：限られた財源を有効に活用しているか。現在の実施方法が最も効率的な方法といえるか。など

公平性：サービス対象に問題はないか。利用者の利便性に配慮しているか。受益者負担の水準は妥当か。など

総合評価：各項目の評価及び類似団体等とのサービス水準の比較を踏まえた、今後の事業のあり方・方向性。

拡充：ニーズの増大に対応して、事業を更に強化する必要があるもの。

継続実施：現状水準で事業を継続していくもの。給付対象者の自然増減に伴いコストが増減する場合を含む。

改善・見直し：現在の仕組みを前提としつつ、実施方法の見直しなどにより改善を図るべきもの。

抜本的見直し：事業の委託化や一部廃止など、事業の仕組みを含めた根本的な見直しが必要なもの。

廃止・休止：事業を休止又は廃止するもの。単年度事業など、終了が確定しているものを含む。